

2018（平成30）年度

## 事業計画書

自 2018（平成30）年4月1日  
至 2019（平成31）年3月31日

公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団

東京都港区芝大門一丁目1番30号  
日本自動車会館 16階

## 【事業概況】

使用済自動車の再資源化等に関する法律（以下、「自動車リサイクル法」という。）が2005年1月に本格施行されて13年が経過し、使用済自動車のリサイクル率も98%程度まで上昇している。

一方で、マテリアルリサイクルの高度化やリユース部品の使用促進、次世代自動車のリユース・リサイクルに関する課題への対応等、3Rの推進・質の向上が求められているところである。

このように自動車のリサイクルの高度化に対する社会的要請を受け、産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG及び中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会第44回合同会議において、自動車リサイクルに係る義務者（自動車メーカー等）が払渡しを受けたリサイクル料金の余剰の一部について、自動車リサイクルの高度化等に資するような公的な事業を行う基金の設立について議論が行われ、その後の検討を経て、2017（平成29）年3月、当財団を設立するに至った。

当財団においては、このような設立の経緯から、将来の地球環境の保全、自然環境の保護・整備と循環型社会の推進に資することを目的とし、自動車のリサイクルの高度化等に関する学術的・実践的調査・研究の推進を行うとともに、消費者団体等の自動車リサイクル等に関する周知活動の支援や自動車の解体・リサイクル等の安全・確実、かつ、円滑な遂行に資する情報・機器等の開発・普及等に資する事業を行う。

## 【自動車リサイクルの高度化等に資する事業】

### I. 助成対象事業（概算総額: 7.6 億円）

前期に採択し進行している以下の3事業が複数年度にわたる実施を前提としていることから、選考委員会における審査を前提に継続するものとして計画。

〔前期からの継続事業〕

- ▷ 自動車由来樹脂リサイクル可能性実証（概算: 2.3 億円）  
実施主体: 株式会社 矢野経済研究所  
概要: 新車向け再生プラスチック採用拡大に向けた実証を実施。品質改善方法、材料の安定供給に向けた体制等について実証しながらコスト検証を推進。
- ▷ 全国の地域リーダーと共に実施する体験型普及啓発のための研修（概算: 2.7 百万円）  
実施主体: NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット  
概要: 全国の地域環境活動リーダー対象に研修実施。周知活動時のツールやマニュアル等を制作し学習会を地域で開催。
- ▷ 自動車リサイクルに関する消費者への周知活動（概算: 4.9 百万円）  
実施主体: 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会  
概要: 属性ごとの周知ポイント、周知方法等を検討し、啓発用小冊子を全国消費者に郵送・配布。

上記継続事業に加え、新たに以下のテーマについて公募を実施する。

（概算総額: 5.3 億円）

〔今期の新規公募事業〕

#### (1) ASRの低減等<sup>\*</sup>に資する再生材の基礎技術研究・開発事業

概要: 使用済自動車の樹脂部品の劣化特性の研究や使用済自動車から発生する再生可能な樹脂の選別技術に関する基礎研究に対する助成を実施。

- (2) ASR の低減等<sup>※</sup>と自動車への再生材の利用に向けた設備開発事業  
概要: 使用済自動車及び ASR からの自動車への再利用に向けた樹脂等選別装置の開発に対する助成を実施。
- (3) ASR の低減等<sup>※</sup>・自動車 3R の高度化に資するリサイクルシステムの事業性評価事業  
概要: 自動車ガラス等の取外し、材料リサイクルシステムの構築・事業性に関して検証。
- (4) NPO 法人等が主催する自動車リサイクルに関する周知活動支援事業  
概要: 自動車リサイクルの取り組みやメリットを消費者の皆さまに認知していただき、また、上記取り組みが実現化した際に、積極的に再生材等を活用いただけるよう、消費者団体等が主催となり実施するセミナー・展示会等の開催に金銭的・人的・物的支援を行う。

※ ASR の低減等: ASR の低減に加え、次世代のマテリアルリサイクルを含む。  
(イメージ例: CFRP・LiB のマテリアルリサイクル、等) を含む。

## II. 自ら実施する事業 (概算総額: 4.2 億円)

- (1) 使用済自動車のリサイクルにおけるベースリサイクル率 (82%) の実態調査事業  
(概算: 1 億円×2 年)  
概要: 樹脂等を中心に再生材の活用促進が社会的な要請となっていることから、解体段階 (次年度は破砕段階を計画) における素材別の取外し状況の実態調査を行い、3R 高度化に向けた各種施策検討の基礎的データとする。
- (2) 次世代自動車の適正処理に向けた実証・研究事業
  - ① CFRP 素材のサーマル処理技術にかかわる実証・研究事業 (概算: 1.5 億円×2 年)  
概要: CFRP のサーマル処理技術開発はいまだ発展途上の段階であることから、処理技術の調査・研究を実施し広く社会に公開することで、低コストな処理施設の育成・普及を図る。
  - ② リチウムイオン電池のサーマル処理実証事業 (概算: 0.5 億円×2 年)  
概要: 自動車用 Li 電池のリサイクル可能施設は限定的 (10 社程度) であることから、今後の発生量増大を勘案し、全国にリサイクル可能施設をより多く設置することで輸送・処理コストの低減を図り、ユーザー負担額の最小化を目指すとともに長距離輸送等での発火等のリスクを最小化する。
- (3) 自動車リサイクル業界の安全な作業と各種作業効率化に資する事業  
エアバッグ作動処理用防護シート導入補助事業 (概算: 1.2 億円)  
概要: 解体工程において実施されている車上作動処理において、冠水車等はインフレーター内部の火薬類が変化し異常爆発を引き起こす可能性がある。また、異常爆発が発生した場合、まれにインフレーターの一部が車外に飛散し、解体事業所の施設や従業員等に損傷を与える可能性があることから、これら車両のエアバッグ類の処理等を安全に作業するための防護設備の開発・配布を行う。

以上